



日本ボーイスカウト川崎地区協議会 川崎スカウトクラブ

目次

川崎市制 100 周年と BS 活動	1	川崎市制 100 周年に寄せて	2
地図を見ながら川崎市の 100 年をさかのぼる	3	ボルチモア交流派遣	4
大先輩・依田功さんを訪ねて	5	ジャンボリー物語	5. 6
里山散策のすすめ	6. 7	御守りについて	7
活動報告・編集後記	8		

[川崎市制 100 周年と BS 活動]

渡部 公

ご承知の通り、川崎市が大正 13 年 (1924) 誕生して以来、今年 (2024) で 100 周年となり様々な記念行事が展開されている。さる 7 月 1 日に記念式典が開催されて、ボーイスカウト (BS) 川崎地区協議会は「市政功労賞」の表彰を受けている。

これを機会に市と BS の関係を (個人的な記憶であるが) 振り返ってみたい。BS 川崎地区委員会は、戦後の混乱期が治まらない昭和 25 年 (1950) 11 月に誕生した。川崎市青少年補導連盟 (現、青少年育成連盟) で、こども会活動に携わっていた小清水黄二氏等が中心になり発足した。(川崎地区創立 70 周年記念誌参照) 当時の川崎市の担当部門は、教育委員会社会教育課であった。私が知っている昭和 40 年頃は、社会教育課青少年教育係が BS 担当で、課長の A 氏は第 38 団創設者、青少年教育係 H 氏は第 39 団団委員長、K 担当は第 36 団団委員長と、BS に関係している職員が多く理解が深かった。社会教育課に入った新人は BS 指導者講習会を受講するのが通例だった。教育委員会ではないが、市の会計課長 I 氏 (後に助役) は第 2 団団委員、地区協議会長小清水黄二氏は市議会議員を務めていることもあり、市の主催する行事の奉仕活動が多かった要因だろう。

当時は交通事情も今ほど厳しくなかったため、パレードを行う機会が多く、プラカードを持ったり、

隊列を組んで行進したこともあった。



近年の交通事情により街頭の奉仕活動は殆ど無くなったが、成人式 (現二十歳を祝うつどい) 奉仕、年末助け合い募金活動は今も続いている。募金全額を川崎市に寄贈するようになったのは何時頃からの記憶にないが、特筆すべきことであろう。一行政・一地区協議会のためのメリットであると思われる。



[川崎市制 100 周年に寄せて]

“遙かなる地区奉仕”

百木 幹雄

川崎市制 100 周年、数々の歴史と共に BS 川崎地区も 70 余年を経過し活動が展開されています。

私の BS 時代も行政に関する PR で土曜日の午後などパレードが行われ BS 団が先頭で、市役所―川崎駅―さいか屋前―銀柳会通りを進み、市役所までを行進。現在の川崎区の隊が中心で、最遠方の 5 隊はユニフォームをバッグに入れ、学校から急行しました。数多くの奉仕活動の中でも特筆すべきは 69 年前（昭和 30 年 10 月）に開催された第 10 回国体でした。



[川崎駅前の歓迎塔]

炬火が市内各地を回り雰囲気は最高潮に盛り上がりました。川崎市では、5 会場で 5 種目（軟式野球、馬術、相撲、バスケットボール、軟式テニス）が行われました。この 5 種目に対し BS 川崎地区として全面的に活動することになり、川崎駅東口、南口にブースを設置、全国から来川する家族、応援団等に対する会場への道案内、駅前での各種案内・誘導、駅前周辺の特に交通量の多い場所での交通整理を行いました。当時の川崎地区は 13 ヶ隊（団）、鋼管隊は別会場で奉仕、駅前テントを訪問する方が多く、私も小川スカウトも四苦八苦で、駅から主会場の富士見公園までスカウト・指導者が並び案内、私もフル参加。高校 1 年生で体育会系部員は期間中休講で、私は担任教師に対して「地元の BS として奉仕したい」と伝えて特別に許可され、BS 活動が認められた瞬間でした。

駅前の交通量の多い場所、特に銀柳街～映画街（現チネチッタ）へ横断する人が多く交差点中央の指令台に立ち、手信号で整理することになり児玉団委員長や私を含め 5 分間程度の訓練後、いざ本番です。

70cm の白い台に乗り笛を吹き白手袋の両手を上に歩行者に手で合図。事故があってはならぬの一心で最高の緊張でした。私の手信号でダンプ、トラック、バスが目の前で停止する驚きと怖さで全身が震えたのを覚えております。通行される人々も各会場とも私達 BS の誘導を見守って呉れたことが何とも嬉しかった事でした。私の自宅前の“日本鋼管独身寮”が選手村になり、新聞・ニュースで知る選手が集まり、夜は日本コロムビアの新人歌手「島倉千代子」が“よしず”の舞台に登場、選手が大興奮でした。10 日間、何の事故もなく奉仕活動が終わった時、市役所の方から BS に対して「期間中本当にご苦労様でした」のお礼を言われた時、嬉しさと喜びで一杯した。自らの取組で行動することにより、他の世界を知れた貴重な体験でした。BS 教育の基本方針「行いながら学ぶ」そのものでした。

川崎会場での地区奉仕は「参加できて良かった」と感謝の毎日として残っております。他にも「春のさくら祭」で中原区役所に集合し、小杉、新城、溝の口の商店街などを鋼管隊のブラスバンド&スカウトが共にパレードして多くの方に喜ばれました。

現在も「多摩川清掃奉仕（ラブリバー）」や「川崎市民祭り」など、市民との“ふれあい”を通じながら、市内各地域の再開発と共に活性化を続ける我が町川崎の素晴らしさ、そして市民として誇りを感じながら今後も BS の奉仕は継続されていくことでしょう。



[昭和 30 年頃の川崎市役所周辺]

[地図を見ながら川崎市の 100 年をさかのぼる]

稲葉 正明

川崎スカウトクラブでは、地名や四国巡礼の経験談などが講演されている。刺激を受けて、ハイキングで親しんだ「東京西南部」5 万分 1 の地図を最近書店で手に入れた。この地図を広げながら、100 年前に誕生した川崎市について何か気づくことはないものかと考えてみた。この地図は川崎市のほぼ全域をカバーしているが、国土地理院のデータベース(1)にアクセスすると、1912 年(明治 45 年)から数年ごとに測量していた地図が閲覧できるので、比較してみると面白い。およそ 100 年前となる 1922 年に測量された地図を見ると、旧表記の表題が「部南西京東」、川崎の読みは「かほさき」となっている。

地図の東側は、「大師町」までしかなく、現在の浮島エリアは入っていない。

地図の東端は東経 139 度 45 分で切られているが、この範囲は現在の地図も変わっていない。目を凝らしてみると、私が通った小学校がある古市場という地名は「矢口渡」を挟んで東京側にも存在していた。

100 年前には六郷橋以外の橋は見当たらないが、往来に必要な羽田渡、矢口渡、平間渡、丸子渡、宮内渡、瀬田渡、登戸渡、矢野口渡などは 100 年前の地図に載っている。渡しにも色々な種類があつて、汽船渡、人馬渡、人渡などの区別も表示されている。

最初の六郷橋は徳川家康が江戸に入府した 1600 年に架けられたと言われているが、洪水で橋が流されるたびに、「六郷の渡し」が復活していた。明治天皇一行が 3 種の神器とともに、多摩川を渡った時には船橋が架けられたことが伝えられているが、船橋のような仮橋は地図には残らない。六郷橋と言えば、正月二日の東京箱根間大学駅伝競走で、1 区の走者が鶴見の中継地点を目指して疾駆するシーンが目につかぶ。箱根駅伝は 1920 年に第 1 回が開催され、その後、開催されなかった年があるため、奇しくも 2024 年に第 100 回が開催されている。地図を見ながら多摩川の渡しと六郷橋を重ね合わせると、箱根駅伝の渡し役は警視庁の白バイになるかもしれない。大手町を出発し、多摩川を渡り、粛々と川崎を通過し、

鶴見の中継地点まで先導してくれる。

頭の中では地図の六郷橋が大きくなってきて、実況放送の様子まで聞こえてくるようだ。もしお願いできるのであれば、六郷橋を渡りきった時に、アナウンサーが少し間を取りながら、“江戸時代より、川崎宿および七ヶ村の鎮守として広く近隣一円の崇敬を集め、御神木の太銀杏の樹齢は 1,000 年とも推定される稲毛神社を右に見ながら・・・”というような、正月の寿ぎにふさわしいコース解説を取り入れてもらえないかと思う。1922 年にはボーイスカウト日本連盟が発足している。2022 年に 100 周年の記念式典が挙行されており、記憶に新しい。その時にまとめられた記念ムービーには、発足 1 年後となる 1923 年の関東大震災で、人命救助や街の復旧に尽力しているスカウト達の姿が記録されている。



ボーイスカウト日本連盟 100 周年記念ムービー(2)

同じように関東大震災で甚大な被害を受けながら、その翌年に予定されていた川崎市の誕生の準備と大震災による災害復旧を並行して進めてこられた先人のご苦労は想像を絶する。

今年 7 月 1 日の川崎市制 100 周年式典で挨拶に立った福田紀彦市長は、100 年の節目に川崎の第二創業の挑戦を進めることを表明している。医療関連産業の振興が進む臨海部キングスカイフロントと羽田空港側をつなぐ全長 680 メートルほどの「多摩川スカイブリッジ」(橋)も 2022 年に完成している。

現在ノーベル賞級の研究も展開されているエリアは 100 年前の地図に、魚介養殖場と表示されていた。

川崎市の発展を象徴するようである。

(1)<https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php>

(2)<https://www.youtube.com/watch?v=LPIvakhEg=31S>

[第30回ボルチモア交流派遣に参加して]

ボーイスカウト川崎第57団 佐藤 彩

1985年から川崎市と姉妹都市であるボルチモア市と交流を始めました。そして日米のスカウトが交互に訪問し合い、今回で30回目となりました。

コロナ禍で一時中断していましたが昨年よりボルチモアとの交流事業が再開しました。そして今年7月20日～8月5日に、スカウト14名、リーダー5名が5年振りに渡米し、交流して参りました。

ボルチモア市ではブロードクリークでのキャンプ、アナポリス、ワシントンD.Cやボルチモア市内観光、ホームステイなど数多くの体験をしました。

ブロードクリークのキャンプ場は広大な敷地に原生林や池があります。そんな自然の中で色々なプログラムがあり、日本では体験できないようなプログラムに挑戦しました。ショットガンやライフルなどは、スタッフから最初に安全とルールの説明があり、一人ひとりがちゃんと理解した上で体験することができました。ウォーターアクティビティではカヌー体験、プールで水球などをしました。

また洞窟の中をヘッドライトをつけて歩くという、キャンプ場外のプログラムもありました。

洞窟の中は真っ暗で本当に人が通れるの！？と思うほど狭いところを進んでいきました。

食事は食堂に食べに行くのですが、毎食キャンプスタッフが歌や踊りで盛り上げてくれて、常に楽しませてくれました。このようなキャンプ生活することで日米のスカウトが打ち解け合い、隙間時間にはカードゲームをしたり談笑したりと楽しんでいました。この交流派遣プログラムの特徴は一人のスカウトが、訪問と受け入れの両方の立場を体験することで友情が育まれていくことです。またいつかこのプログラムを通じてできた仲間と再会できるのも魅力の一つだと思います。このような素晴らしいプログラムを40年間も続けることは容易ではありません。この交流に関わった方々の熱意により受け継がれています。この交流事業に関わってくださった皆様に感謝するとともにこれからも末永く続くことを願っています。

(佐藤道夫会員令嬢)



洞窟探検（ケービング）



「参加章」の手作りケーキが用意されていた

【大先輩・依田 功さんを訪ねて】

長谷川 博之

2024年6月19日、私と杉浦さんは羽田から広島へ向かった。地区70周年誌でかつて川崎地区に企業隊があったことを紹介しているが、この中の旧日本鋼管隊第8隊の隊長であった依田 功さんに会うのが目的だ。お会いした時の第一印象は「この人本当に91歳？」であった。現在は二十数名の弟子を持つ陶芸教室を主宰し、グランドゴルフを楽しみ、朝は6時頃から2時間半は散歩し、よく話すし頭はさえて、食欲旺盛、身体は精悍なスタイル、PCを使いメールを駆使・・・これが依田さんだ。依田さんは昭和20～30年代にかけて私の父とスカウト活動を共にした仲間で、数隊あった鋼管隊の創設時期から現在の福山に転勤になる昭和38年頃まで中心的指導者で川崎地区の副コミッショナーも歴任していた。そんな時期のことをお聞きするのが今回の目的だった。私は父の事をあまり知らず育った(父は仕事柄、家にいることが少なかった)ので、父との記憶は写真による子供の頃の疑似記憶しかない。そのため父のことを知っている方がご健在というのに心は高揚していた。また、父が有名な広島の彫刻家である圓鏝勝三氏(川崎市名誉市民)と旧知であったこともご存じで、今回の広島旅行ではその「圓鏝勝三美術館」にも案内してくれた。

昔の川崎地区や旧鋼管隊についてインタビューしたところ、依田さんは古い写真や記録を沢山持参され、我々が不明だったことを克明に教えてくれた。その話の中で当クラブでは百木さん、小川さん(ギルウェル実習所が同じ班で集合写真を持ってこられた)、鋼管隊に在籍されていた佐藤さんに加え、38団の秋田さん、56団の吉沢さんのことなどを懐かしく語っておられた。さらに日本鋼管・鋼管隊隊長5人衆というべき方々がいて、このなかで依田さんを含む2人が主体で、この時代では川崎地区に多大な貢献があったことも判明した。

肝心な話としては、昔の鋼管隊のことや29団や父との交流に話が進み、加えて自己の生い立ちから日本鋼管に就職、ボーイスカウト、結婚、そして昭和

38年頃に福山工場へ転勤、ボーイスカウト活動が終息。こんな経緯を話してくれた。感無量のようであった。一方、BS活動で家庭を顧みない日々を反省していると語っていたことも印象的だった。話しは尽きないが、ご多幸を願いつつペンを置きたい。

この機会を作ってくださった杉浦さんにもこの紙面をお借りし感謝申し上げる。



“WILD&QUIET” [第13回日本ジャンボリー]

第4隊隊長 萩原 泉

「強く、正しく、明るく、そして楽しく」大阪の舞洲に一夜城を造って、神奈川の意気込みを見せてやろう！しかし、一夜城のはずが三日目にやっと完成したと思ったら、風で倒れてしまった。

神奈川第4隊の特徴は横浜地区と川崎地区の混成隊で、男だけのむさ苦しい集合隊でした。

夏の大阪の埋立地、暑さ対策に万全を期した。



遮光ネットを蚊帳テントの1m上に張って、テント内の温度を下げた。スカウトが昼寝も出来る程のテントとなった。

隊長としても気合十分だが失敗の連続だ

った。ランタン6個全て積込みを忘れた。

場外プログラムの日に残った隊付と二人で「冷やし白玉ぜんざいを作って、汗だくで帰ってくるスカウトにご馳走しよう」なんて二人で気軽に準備を始めたが、白玉が丸まらない。白玉を諦め、ただのぜんざいにしようと考えていたら、見学者の女性リーダーから「手を冷やさないと丸くならない」と教えてもらい、今度はうまく出来てスカウトの評判も上々だった。ランタンは川崎の派遣隊から少しずつお借りした。持ち込んだ発電機で40ワット電球2個を食堂の照明とした。お陰で生活担当の遠藤副長は夜の隊長会議で每晚指摘された。

場外プロには各自に3Lの麦茶を持たせた。朝夕の体重測定で、ある班だけ大汗をかいても体重が増えていた。スカウト達は「粉もんは本場に限る」と笑顔を見せていた。事前説明会の資料で4隊はアリーナの隣で、水道が目の前なのを確認して、30mのホースを準備し、日に何回かサイトに散水をして、埃が立たない様に安全面に注意をした。

風下の隊は砂埃の中で食事をしていた。スカウトの安全第一を考えてのホース持参のため、本部から何を言われようが水を撒き続けた。

神奈川第4隊はITの専門家の亀井副長が、会場のスカウトの様子を川崎の笹川さんの管理するHPにリアルにUPしていたため、保護者・原隊指導者からの反響もあり、このHPでの交流は12月まで続いた。また、横浜地区の遠藤副長はデザイナーのため事前準備する資料造りは完璧で、報告書の作成では、その力を大いに発揮して頂いた。

隊長は看板・のぼり、一夜城の大型提灯・一夜城のデザイン等を担当したくらいでした。



【リラックス効果抜群、里山散策のすすめ】

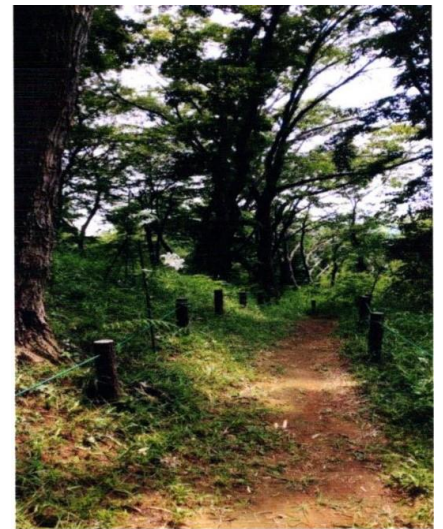
一里山の保全維持を目的に活動する一

「日向山うるわしの会に参加して」

今村 文彦

こんなに近くに憩いの森、里山があるとは知らなかった。谷本さんのお誘いを受けて、笹竹の下払い作業奉仕に参加して、日向山を知りました。日向山は「川崎市市民健康の森」に指定されている里山です。毎月第一土曜日が作業日、約2時間刈払機で作業をして汗を流します。

山の中腹に集会場があつて、自然学習の小学生を交え、ボランティアの皆さんとの交流会があります。学童との野草観察、竹細工遊びの学び、先週はながい孟宗竹のソーメン流し等、市民ボランティアの活躍が見事です。汗をたっぷり流して、森の息吹をお腹一杯に吸い込む、高齢者には楽でない作業ですが、奉仕活動の達成感、森林浴でリラックス、総じてプラス効果を感じています。「里山をより身近に！」そして少しの奉



仕活動に参加することは、地域の仲間づくりにもいいかなと思っています。是非、お近くの里山に散策に出かけてみては如何ですか。

◎参考までに

里山とは自然環境と都市空間の境界に位置し、集落を取り巻く二次林、農地、ため池、草原などで構成される地域を指す。水質浄化や大気浄化など人々が生きていくための良好な環境を提供する役割を果たしている。多摩区のほぼ中央に位置する日向山は「川崎市市民健康の森」7ヶ所の一つである、4.5ha（東京ドーム1ヶ分位の広さ）市民健康の森は「緑の中、市民が語り、憩う“ひろば”としての森、里山として市民の手で保全されている。」

◎里山森林浴の効果：

副交感神経の活動の増加、副交感神経の指標とされるHF成分が増加、風景を観察した場合 51.6%、ウォーキングをすると 102.0%(出所：Copilot から)

[御守りについて]

谷本 通安

日本人に古くから愛用され親しまれてきた御守りは、人々の側(ソバ)に寄り添い、そっと心を元気づけてくれる存在で“期待感”と“安心感”を与えてくれる小さな縁起物です。最近では“願い”や“祈り”が多種多様化し、御利益のバリエーションも増え、個性的なオリジナリティー溢れる御守りも見られ、スピリチュアル&パワースポットなるブームも手伝って、今や御守りの世界は無限大に広がっており、日本は世界きっての御守り大国です。

広義で、国内外の全ての縁起物を指し、魔除けの物や幸運のマスコット、ノベルティーグッズ、護符、アクセサリーの石や宝石、一時流行ったドリームキャッチャー（ネイティブアメリカン・アリゾナ州オジブワ族に伝わる）、ミサンガ(縁起担ぎのビーズ)、

ボージョボー人形(サイパンの願掛け縁起物)。又、母親や恋人等個人的に作られた物や、ご先祖の「形見」等もお守りといえるし、7世紀後半には、九州沿岸を守る防人が恋人や妻の髪や陰毛を肌身離さず持つ精神的なつながり、他にも、みんなが守ってくれて



“共に闘う”的な意味の「千羽鶴」「千人針」もお守りといえる。狭義で、神職者や僧侶等の宗教者により、神前仏前で御霊(ミタ)入れ・お祓いや祈願祈禱を受けた授与品で、神仏の御神威(ゴシイ)力と個人の祈る気持ち・願う気持ちを“見える化”した物が御守りです。大いなる力を持つ神様仏様を人間のライフスタイルに合うまでに、神社仏閣を縮小し、紙札や石、木札等の依り代(ヨシヨ)（御神体）に憑依(ヒヨウ)させそれを常時身に付け持ち歩くことによって、持ち主を守護し、清め、時には運気を高め、心のよりどころとなる物です。

成立ちには、古代人が意識的に石や玉を勾玉(マカタ)として身に付けたことに始まり、体系化は平安時代の貴族達が肌身離さず円筒形の木材を二つに割って内部を切り抜きその中に護符を納め一つにし、錦布で装飾を施し携帯した「懸守り(カケマシ)」ですが、体系化される前は日本人のアイデンティティーの一つ自然崇拝(アニミズム)の思想から、石・木・実・牙・骨・葉・羽・貝等“自然を司る物”をお守りとして身につけていた。それは自然界の脅威を恐れて畏敬の念を抱き、又、豊穰と偉大さに畏怖の念を抱き、人間の力ではどうすることも出来ない自然の驚異的な力を味方にし身につけるように、自然の力に逆らうのではなく自然の力を取り入れ・受け入れ・利用する「共に生きる」為にでした。

御守りは、守袋の中に「中符」として収められており最も大切な物で、御神威が込められている物なので汚れ(穢れ)たりすることの無きよう袋は開けることを避けるべきです。

御守りは“効果”を期待するものではなく、日々感謝し、強い意志を持って行動した人に、神仏はご神徳の「ご縁」「運」「タイミング」を授け見守って頂けます。心地よく生きる為のマスターピースです。



[活動記録]

日本銀行 [貨幣博物館] 見学

1月に実施した [山手七福神巡り] で見学した「北里柴三郎記念博物館」の北里博士の肖像が、7月に替わる新1,000円札に採用されました。

これを機会に事前に見本品を見られる事や、お金の歴史・知識を得られる [貨幣博物館] の見学会を4月30日実施しました。参加者9名でした。

博物館は江戸時代の“金座”があった場所で幕末まで金貨が作られたそうです。我が国最初の硬貨「和銅開珎(ワドカイテン)」や「大判」「小判」最初の紙幣「神功皇后札(ジノウゴウコウワダ)」等から、近年使用された紙幣、今年7月から使われる新札の見本等が展示されていて、見応えのある見学会でした。



見学会終了後、近くの「三井記念美術館」で国宝“茶道具”等が展示されていたため、希望者6名で行きました。何点かの国宝を見られて感動しました。

[日本科学未来館] 見学会

7月5日参加者8名で、日本科学未来館見学会を実施しました。この施設は、先端の科学技術を体験できる博物館で、テーマはロボット・人工知能・生命科学・地球環境・宇宙、と未来に関わる科学技術を紹介しています。各コーナーには専門の説明員がいて、説明を受けながら体験することが出来ました。小学生の団体見学者が多く、我々8名の少人数の見学は順番が来ず大変でした。「老いパーク」を体験したかったのですが、小学生に占領されて出来なかったのが残念でした。

初代館長は宇宙飛行士の毛利 衛氏でしたが、現在は名誉館長になり2代目館長は女性研究者に替わりました。昼食は7階の“展望ラウンジ”で、お台場の景色を眺めながら摂りました。往復“ゆりかもめ”に乗車しての見学会でした。



会員募集

当クラブは、地域社会への奉仕活動、ハイキング、デイキャンプ、親睦旅行などを通して楽しみながら活動しています。

スカウト経験者以外でも、どなたでもご参加いただけますので、一緒に活動しませんか。お問い合わせは下記へご連絡ください。

連絡先

事務局 渡部 公

電話 090-5499-1280

E-mail: ciao.14125@kce.biglobe.ne.jp

編集後記

- ・川崎市制100周年に因んで寄稿してもらいました。それぞれの思いが込められた内容になりました。
- ・ボルチモアとの交流が始まり 30 回記念の派遣隊が訪米したので、リーダー佐藤さんに感想文をお願いしました。有難うございました。
- ・タイトル写真は百日草です。開花してから百日間咲いているため名付けられたと言われています。
- ・次号第 47 号は、来年 1 月 20 日発行を予定しています。スカウトクラブ会員以外の方も是非ご寄稿ください。お待ちしております。(渡部)